

2024 年ゲスト審査員 佐藤洋嗣さんの講評

関東アコーディオン演奏交流会お疲れ様でした。実行委員の方々のアイデアがつまった、交流会という名にふさわしいとても温かい雰囲気のコククールでした。出場された皆さんの演奏前の緊張感や、弾き終わった瞬間のほころんだ笑顔がとても印象的でした。衣装や演出もこの日に向けた熱意が伝わってきました。

今年は重奏以上の審査という事でいろいろな組み合わせのアンサンブルを聴かせていただきました。オーケストラや映画音楽、中南米の音楽などいろいろな音楽で参加出来るのもアコーディオン・コククールならではのですね。アコーディオンとハープのデュオはとても良い組み合わせで、美しい響きを持っていました。アコーディオンとピアノという組み合わせも個人的には初めてで新しい発見でした。ロメオとジュリエットやピアソラなどとても迫力がありました。ピアノとの音量のバランスが難しいですね。座る位置や向きなど良い方法を見つけてください。アンサンブルの部、合奏の部ではもっと多様な楽器の組み合わせを聴いてみたかったです。是非新しい楽器との組み合わせにも挑戦してみてください！

アンサンブルはとても奥が深く今回コククールに参加したことで新しく課題も見つかったかと思います。お互いにたくさん会話をして、息を合わせて演奏する楽しみを味わってください。

作曲家の池辺晋一郎さんが、ご自身の弦楽四重奏曲のリハーサルを見て「やっぱり弦楽クアルテットは始終相談だなあ」と呟いたのは有名な話。天才的なダジャレですね！

佐藤洋嗣

■佐藤洋嗣（コントラバス奏者）■



高校時代はエレクトリック・ベースを演奏し、卒業後コントラバスの魅力に触れ、転向。

2006年東京音楽大学卒業。現在は室内楽、オーケストラ、アルゼンチン・タンゴなどを下から支えつつ、コントラバスの新しい可能性を探りながら演奏している。

アンサンブル・ノマド、チコス・デ・パンパのメンバー。バンドジャーナル誌に於いてワンポイントレッスンを連載。

これまで多数のリサイタルを開催。